

溝渕 雅幸 監督作品

四万十

いのちの仕舞い



生まれたら死ぬ
単純な
ことながら



助成: 文化庁文化芸術振興費補助金

後援: ホスピス財団

特別協賛: 吉村 昌也

旭食品会社

協賛: 高知銀行 株式会社ナカニシヤ 株式会社アサヒ・ファミリー・ニュース社

制作総括: 藤原 福次 語り: とりばみ はる 音楽: ザビエル大村 イラスト: 溝渕 真一郎 川柳・題字: 小笠原 望 撮影: 長谷川 智康 録音・監音: 山下 彰 制作: 金城 恒次 映像技術: 馬場 良治 サウンドミキサー: 吉田 一郎

撮影協力: 一般社団法人四万十市観光協会/高知フィルムコミッション/新ロイヤルホテル四万十 四万十川屋形船なっとく/高松赤十字病院/華南印刷本社 技術協力: 有限会社ガリレオクラブ/株式会社NRCメディアテクノロジ/有限会社ココロサン/株式会社東京映像所/

アスツナブエイゾウ/Bakken9産会連史 制作: R's STAFF 制作・配給: 株式会社ディンギーズ 2017年/日本/カラー/4KDCP/108分



四万十川の美しい自然を背景に
患者と医師の交流を描く。
いのちの営みといのちの看取りを
感動的に撮ったさわやかな作品。
自然、人、いのち、医療の4本柱が
しっかりと観る者のこころをとらえる。

ホスピス財団理事長
淀川キリスト教病院理事長
柏木 哲夫

しあわせと思えたら、それがしあわせ

町の中央を大河四万十が流れる高知県四万十市。

人々はその恩恵や時には脅威を受けながらも川と共に生きている。

四万十川流域の人々を医療の面で支える内科医の小笠原望さん。

彼が営む診療所には、毎朝早くから大勢の人が訪れる。

その一人ひとりに優しく語りかけ、話を聴き、そしてみる。

診療所に来られない人やその家族は、

家や入居する施設へ往診する。

病を診るのではなく、患者さんをその家族も含め丸ごとみて、聴く。

大河四万十の流域で、人と自然の「いのち」に寄り添う、

小笠原望さんの日々を追う。

ひとのいのちも自然のなかのもの

「人間はすごい、人間って切ないねえ」と、
ぼくはいのちと格闘してきました。

「ひとのいのちも自然のなかのもの」と、
ぼくの医療観を変化させてくれた四万十の自然とともに、
溝淵監督が映画にしてくれました。
想いが届いたらうれしいです。

小笠原 望

便利さと豊かさと幸せと

快適な生活環境と物質的に満たされることで、
人は幸福になれるのか？

本作の字幕翻訳を担当したバン・マサノリ氏は
「いのちの仕舞い」を「THE PEACEFUL DEATH」と訳した。
この壮大なテーマについてのひとつの解と思えてならない。

監督 溝淵 雅幸



“いい仕舞い”とは 四万十のことばで、食べられて、痛くなくて、
みんなと話ができて、なじみの人の中で最後を迎えること。

2018年1月27日(土)
TOHOシネマズ高知にて
ロードショー

イオンモール高知3F
TOHOシネマズ高知
050-6868-5029

〒780-0026
高知県高知市秦南町1-4-8
イオンモール高知3F

